

## 周遊滞在エリアの概況

### 【地域の概況】

- 倉吉市の打吹地区（打吹玉川伝統的建造物群保存地区を含む。）、東は鳥取県立美術館（令和7年春開館予定）や国史跡大御堂廃寺跡、西は円形劇場くらしフィギュアミュージアムや国登録記念物・県指定名勝小川氏庭園が位置するエリアである。

### 【観光の概況】

- 観光客数は、**増加傾向であったものの近年はコロナ禍の影響を受けて減少傾向**にある。
- エリアまでは、鉄道及び高速バス、路線バス等の移動手段があり、エリア内には、レンタサイクルも整備されている。
- エリア内には市営の駐車場が複数整備されているが、**観光案内所近くの駐車場に利用者が集中し、その一方で、周辺駐車場の利用者は少ない**状況である。また、地域内に進入した観光客の車両は、路上駐車など交通マナーが悪いことがある。（ヒアリングより）
- 打吹回廊やプロムナード公園等の観光資源をうまく活用できていない。**（ヒアリングより）

## 観光客の移動に関する特性

- 来訪施設は、**白壁土蔵群となしっこ館に集中**し、それ以外の施設への来訪は少ない。
- 来訪者の**滞在時間2時間以下が約半数**を占める。
- エリアまでの交通手段は自家用車が約7割と最も多い。また、エリア内の交通手段も自家用車が約5割と最も多く、**他の交通手段と比較して、来訪施設数も少なく、滞在時間も短い傾向**にある。
- 来訪者の1/3は1ゾーンのみ**の来訪。特に西側ゾーンには回遊する人が少ない。
- 複数のゾーンを来訪する際は、公共交通・自家用車を利用する傾向が強く、徒歩のみではゾーン間の回遊が少ない傾向にある。
- 観光マップ等によるモデルコースの紹介や、町並みや歩行空間が整備されていることを求めるニーズが多い。**
- グリーンスローモビリティ等の周遊モビリティへの利用意向は高い。
- 県立美術館への来訪意向は高い。

## 地域住民の移動に関する特性

- 成徳・明倫地区は、市内でも**高齢化が高い地域**。（ヒアリングより）
- 普段の移動は大半が自家用車であり、病院や金融機関へ公共交通を利用する人も少数ながら存在。
- 明倫地区は、徒歩圏内に買い物施設が少なく、**買い物に不便が生じている（一部地域では移動販売がある）。一方、成徳地区は、複数のスーパーが近くに立地しているとともに、路線バスも便利がよく、移動に不便をしているとの意見は少ない。（ヒアリングより）

## 周遊滞在エリアの観光移動に関する課題

来訪者が周遊滞在エリア内を容易に巡ることができ、かつ様々な観光スポットへの周遊を喚起・誘発する取組が必要

自家用車で来訪しやすく、周遊しやすい移動環境が必要

ゾーン間の移動を支援する取組が必要

既存の関連施設の機能を十分に発揮させる取組が必要

## 地域における課題

少子高齢化の進展に対応した地域活性化策が必要

令和3年のWEBアンケート及び地域ヒアリング調査結果より

## 周遊滞在エリアにモビリティを導入する際に留意すること

- ①グリスロに試乗した感想として、否定的な意見は少なかった。利用意向については、観光客に比べ、地域住民の方が低い結果となった。また、地域住民も観光客向けのモビリティを通じて、地域活性化を期待していることから、観光客利用を対象とした運行が望ましい。
- ②既存の公共交通等と連携した計画とすることが必要。
- ③観光客のメリットだけでなく、地域住民にもメリットになる取組でなければ、持続可能な取り組みとならない。
- ④ルート検討の際は、幹線道路や主要道路の走行により、一般交通を阻害するルートにならないか、十分な検討が必要。また、玉川沿いなどの自転車・歩行者が多い箇所を走行する場合は、十分な配慮が必要。

令和4年の実証実験結果より

## 周遊滞在エリアにモビリティを導入する際に留意すること

- ①実証実験ではモビリティの向上により、観光客・地域住民の交流が生まれ、周遊滞在エリアの魅力向上に繋がった。今後は地域の商店や地域住民等と連携した取組を行い、更なるエリアの魅力向上を図った方が良い。
- ②グリスロは第1期・第2期ともに観光客・地域住民に満足度も高く好評であったため、対象を観光客及び地域住民として、具体的な内容を検討した方が良い。
- ③グリスロは定時定路線運行では、起点～終点までの1周利用が全体の約7割を占めた。今後導入を進めるにあたっては、ルート上で乗降するなどの周遊滞在に繋がる観点での起終点の検討が必要。
- ④特に音声案内についての要望が多く、自動音声等のIoTの導入も含め、観光スポットでの音声案内の検討は必要。
- ⑤観光モデルコースは、ガイド付きの観光案内が特に評価されたとともに、希望料金も他のモビリティに比べて高額であった。地域のおでかけツアーも住民同士の交流促進につながるなど好評であった。いずれも継続して導入を検討した方が良い。
- ⑥ループバスは、市民の利用が約8割とグリスロに比べて多かったものの、既存公共交通等との調整が必要となり検討に時間を費やす可能性があることから、まずは利用の多い観光面からの導入を優先することも検討した方が良い。